

令和元年6月28日

国立研究開発法人科学技術振興機構

理数学習推進部

## 1. 事業の背景、目的

近年、国際的な学力調査等により、日本の生徒の理科学習への興味や目的意識の希薄化など、科学的な「態度面」の低下が指摘されています。また、高等学校等における科学部の活動は運動部に比較して低調であり、科学好きの生徒が切磋琢磨し、評価される場が求められてきました。

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）は、平成23年度より「科学の甲子園」を創設し、全国の科学好きな高校生が集い、競い合い、活躍できる場を構築しています。また、このような場を創ることで、科学好きの裾野を広げるとともに、トップ層を伸ばすことを目指しています。

## 2. 事業内容

科学の甲子園全国大会は、国立、公立、私立の高等学校、中等教育学校後期課程及び高等専門学校等の生徒で編成されたチームを対象として、科学技術・理科・数学等における複数分野の競技を行う大会です。各都道府県において代表選考が行われ、各都道府県からの代表チームが科学技術振興機構（JST）が主催する全国大会に出場します。出場チームは筆記競技、実技競技に挑戦してその総合点を競い合います。優勝チームには文部科学大臣賞が授与され、その他の優秀チームにも、各種協賛企業賞を含む表彰が授与されます。

## 3. 全国大会の実施、及び連携自治体について

全国大会の実施主体であるJSTと協力して全国大会の実施に当たる地方自治体（以下、「連携自治体」と言う。）を、公募によって選定します。全国大会の規模としては、出場校47チームの選手団（各チーム生徒8名、引率教員1名）の約430名、都道府県教育委員会約50名、連携自治体、審査委員、JSTほか関係者の約100名、その他当日の一般来場者の約500名を合わせた1,100名程度の参加を想定しています。都道府県代表選考については、都道府県教育委員会に実施を委ねますので、連携自治体が他の都道府県の代表選考に関与することはありません。

JSTと連携自治体との役割分担は概ね以下の通りです。

### （1）JST

- 全国大会の企画・運営全般
- 推進委員会の開催（企画、作問方針、運営方針、全国大会の構成等の決定、競技問題の承認）
- 問題の作成
- 都道府県代表選考にかかる各教育委員会との調整、都道府県代表チームとの調整
- 科学の甲子園にかかる広報
- 協働パートナー企業の勧誘、表彰にかかる調整
- 運営経費の負担

## (2) 連携自治体

- 期間を通じての「科学の甲子園」の企画・運営・広報への協力
- 運営支援（競技の監督、採点等）
- 全国大会会場の確保、宿泊施設、エクスカージョン先の提案

今回の公募により選定された連携自治体との協力期間は予算の成立を前提として、約3年間（令和元年度の決定から令和4年度の全国大会終了まで）とします。運営の分担等の詳細については選定した連携自治体と協議の上、決定します。なお、令和5年度以降の実施に関しては令和4年度中に方針を決定する予定です。

また、連携自治体として、本大会を開催することにより、以下の効果が期待されます。

- ① 関係者の理数教育推進機運の向上
  - ▶ 都道府県内の行政関係者や教育関係者の注目が集まることによる理数教育機運の向上
  - ▶ 本大会の開催業務をきっかけとして、教育委員会内の各部署や行政部門との連携が促進されることによる都道府県における新たな人材育成施策の創出
- ② 人的ネットワーク構築・教員育成への寄与
  - ▶ 日本中から優秀な生徒及び引率教員が集うことによるネットワークの構築
  - ▶ 競技支援として地元の教員を参加させることで通常では体験できない経験
- ③ 経済効果
  - ▶ 各都道府県の参加生徒等が一同に集まることによる宿泊支出や飲食支出の増大
  - ▶ 大会会場内での地元お土産ブースなどの設置
- ④ 広報効果
  - ▶ 開催地が大々的に報道されることによる大きな宣伝効果
  - ▶ JSTが行う報道関係者への説明会における連携自治体のPR
  - ▶ 知事賞や市長賞など連携自治体に関する賞によるプレゼンスの向上
  - ▶ 共催者挨拶としての登壇による日本の各県代表生徒に向けての発信

## 4. 全国大会の日程等について

令和2年度全国大会の日程は、令和3年3月19日（金）～3月22日（月）を想定していますが、具体的な日程は連携自治体とも相談の上、決定します。

また、参考にモデルスケジュールを示しますのでご参照下さい（参考1：科学の甲子園全国大会 モデルスケジュール）。具体的なスケジュールは、連携自治体の状況も勘案し決定します。

## 5. 公募内容

### (1) 公募期間

令和元年6月28日（金）～令和元年8月28日（水）

### (2) 公募対象

都道府県教育委員会及び都道府県（市町村及び市町村教育委員会との連名も可）

### (3) 提案内容

以下の①～⑥の全てについてご提案下さい。記載のない項目がある場合は、申請を受理できない場合がありますのでご注意下さい。

- ① 「科学の甲子園」の企画・運営・広報への協力

- ・ 自治体内の協力体制や外部機関（企業、大学、報道機関等）との連携体制
  - ・ 本大会の認知度を高めるための取組や一般来場者を呼び込む工夫
  - ・ その他、「科学の甲子園」の企画・運営・広報への協力」に対する自治体独自の提案（あれば記載）
- ② 全国大会における運営支援
- ・ 競技問題（物理・化学・生物・地学・数学・情報分野）の採点や監督等の協力ができる者を60名以上確保できるかの見込み
  - ・ その他、「全国大会における運営支援」に対する自治体独自の提案（あれば記載）
- ③ 全国大会運営に必要な会場
- ・ 次の要件を満たす適切な会場
    - ・ 空路・陸路共に交通網が充実しており、アクセスの良い会場であること（選手団が各都道府県庁所在地から出発し、大会1日目の開会式（14～15時開会）に宿泊を伴わずに到着できること、選手団の交通費が従来の負担額から大幅に増加しないことを原則とします）
    - ・ 全国大会運営に必要な場所・設備を確保できること（具体的な要件は提案様式である「別紙2：科学の甲子園全国大会（令和2～4年度）会場提案書」を参照。）
    - ・ 公費を財源としていることを鑑み、できるだけ安価であること
- ④ 宿泊施設
- ・ 次の要件を満たす適切な宿泊施設
    - ・ 選手団（約430名）と関係者（都道府県教育委員会や審査委員、JST関係者など約120名程度）の計550名を収容できる宿泊施設を提案すること。
    - ・ 生徒と引率教員は学校毎に同一宿泊施設とし、宿泊先がホテル・旅館の場合は生徒は3名1室または2名1室、大人は1名1室を原則とするが、安価である場合は生徒1名1室も可とする。また、体育館のような合宿施設の場合は1室4名以上も可とする。関係者は全員大人と想定し、原則ホテル・旅館宿泊とし、1名1室とする。
    - ・ 主要駅や会場とのアクセスが良い宿泊施設の提案を歓迎。会場と宿泊施設が離れている場合でも、貸し切りバス等により30分程度で会場に移動可能であれば提案可能。
    - ・ 少数の宿泊施設で必要人数（550名）収容できる提案を歓迎。
    - ・ 公費を財源としていることを鑑み、できるだけ安価であること
- ⑤ エクスカーション先
- ・ 科学の甲子園に出場する選手団（約430名）に適切なエクスカーション先（最終日の朝出発し、午前中で終了可能であること）
- ⑥ 運営経費の負担
- ・ 会場利用料、出場選手団、競技支援員、関係者等の自治体内移動に係る交通費、宿泊費等運営経費の負担可能額

## 6. 選考方法

- ・ 外部有識者で構成される「科学の甲子園及び科学の甲子園ジュニア推進委員会」にて審議し、JSTが選定します。
- ・ 審議は、評価項目に沿って提出書類及びプレゼンテーション、面接の内容を議論した上で、総合

的な観点も踏まえ行います（9月上旬頃、JST 東京本部を想定）。

- ・ 評価項目については、「参考 2：科学の甲子園全国大会（令和 2～4 年度）連携自治体評価項目」をご参照下さい。
- ・ 結果通知は9月中を予定しています。

## 7. 留意事項

- ・ 採択された場合、以下の事項にご対応頂くこととなります。
  - ・ 共催者としての推進委員会への参加（四半期に1回程度の頻度で開催し、各回1名程度の参加を想定。なお、他自治体との公平性の観点から、直接作問に携わることはない。）
  - ・ 全国大会の実行委員会への参加（自治体から1名の参加を想定。実行委員会とは、全国大会の開催期間中、運営を円滑にするために設置される、JST 理事長を委員長とする組織。）
  - ・ 実行委員会の下部にある運営委員会と審査委員会への参加（自治体から各1名参加。運営委員会は、実行委員会の命を受け全国大会の運営全般に係る事項（審査委員会の所掌に係るものを除く。）を所掌。審査委員会は、全国大会の競技に係る審判、採点及び順位決定等に関わる事項を所掌。）
- ・ プレゼンテーション・面接にかかる旅費、日当等は支給しません。
- ・ 科学の甲子園ジュニア（中学版）の連携自治体についても同時に公募していますが、両方への応募は可能です。

## 8. 応募登録及びお問い合わせ先

別紙の応募用紙（「別紙 1：科学の甲子園全国大会（令和 2～4 年度）連携自治体 応募用紙」及び「別紙 2：科学の甲子園全国大会（令和 2～4 年度）会場提案書」）にご記入の上、正本を1部、副本を15部、下記宛先に、公募期間中に提出ください。正本には、代表者の公印を必ず押印してください。また、応募用紙以外の別紙や参考資料等についても同部数提出願います。受領後 JST から受理メールを送付します。

<宛先>

〒332-0012 埼玉県川口市本町 4-1-8 川口センタービル 14 階  
国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）  
理数学習推進部 才能育成グループ 科学の甲子園事務局

<お問い合わせ先>

e-mail : koushien@jst.go.jp

（◎を@に変えてください。迷惑メール防止にご協力ください。）

国立研究開発法人科学技術振興機構  
理数学習推進部才能育成グループ  
科学の甲子園事務局 宛  
電話 048-226-5665

以上

## 科学の甲子園全国大会 モデルスケジュール

## &lt;モデル1&gt;

## 大会1日目

時間	プログラム
～ 14 : 00	選手団到着・受付
14 : 00～15 : 00	開会式
15 : 00～15 : 15	オリエンテーション
16 : 00～18 : 00	筆記競技
18 : 20～19 : 00	選手交流会
19 : 00～20 : 00	夕食
20 : 00～	宿泊施設へ移動、チェックイン、入浴・就寝

## 大会2日目

時間	プログラム
～ 9 : 00	朝食・準備
9 : 40～11 : 20	実技競技①
11 : 50～12 : 30	昼食
13 : 00～14 : 40	実技競技②
15 : 50～18 : 20	実技競技③
18 : 40～19 : 40	夕食
20 : 00～	宿泊施設へ移動、入浴・就寝

## 大会3日目

時間	プログラム
～ 9 : 00	朝食・準備
9 : 00～10 : 00	関係者交流会
10 : 00～11 : 45	特別シンポジウム
11 : 45～12 : 45	昼食
13 : 00～14 : 20	表彰式
14 : 30～16 : 30	協働パートナー等によるブース展示等、優勝チーム記者会見
17 : 00～18 : 30	フェアウェルパーティー
18 : 30～	宿泊施設へ移動、入浴・就寝

## 大会4日目

時間	プログラム
～ 8 : 30	朝食・準備
8 : 30～12 : 30	チェックアウト、エクスカーション、解散

## &lt;モデル2&gt;

## 大会1日目

時間	プログラム
～ 15 : 00	選手団到着・受付
15 : 00～16 : 00	開会式
16 : 00～16 : 15	オリエンテーション
16 : 30～17 : 15	選手交流会
17 : 30～18 : 30	夕食
19 : 00～	宿泊施設へ移動、チェックイン、入浴・就寝

## 大会2日目

時間	プログラム
～ 8 : 30	朝食・準備
8 : 50～10 : 50	筆記競技
11 : 10～12 : 00	昼食
12 : 30～14 : 10	実技競技①
15 : 30～17 : 10	実技競技②
17 : 30～18 : 30	夕食
18 : 00～19 : 00	関係者交流会
19 : 00～	宿泊施設へ移動、入浴・就寝

## 大会3日目

時間	プログラム
～ 8 : 30	朝食・準備
8 : 50～11 : 20	実技競技③
11 : 40～12 : 40	昼食
13 : 00～14 : 45	特別シンポジウム
15 : 00～16 : 20	表彰式
16 : 30～18 : 00	協働パートナー等によるブース展示等、優勝チーム記者会見
18 : 30～20 : 00	フェアウェルパーティー
20 : 30～	宿泊施設へ移動、入浴・就寝

## 大会4日目

時間	プログラム
～ 8 : 30	朝食・準備
8 : 30～12 : 30	チェックアウト、エクスカーション、解散

※（1）と（2）ともあくまでモデルであり、実際のスケジュールと異なる場合があります。

## 科学の甲子園全国大会(令和2～4年度)連携自治体評価項目

<p>① 「科学の甲子園」の企画・運営・広報への協力</p> <p>自治体内の協力体制や外部機関（企業、大学、報道機関等）との連携体制が具体的・現実的で魅力があるか</p> <p>本大会の認知度を高めるための取組や一般来場者を呼び込む工夫が具体的・現実的で魅力があるか</p> <p>その他、「科学の甲子園」の企画・運営・広報への協力に関する自治体独自の提案</p>
<p>② 全国大会における運営支援</p> <p>競技問題の採点や監督等の協力ができる者(60名以上)を確保できるか。協力者の質は適切か。</p> <p>その他、「全国大会における運営支援」に関するその他自治体独自の提案</p>
<p>③ 全国大会運営に必要な会場</p> <p>会場へのアクセスは良いか</p> <p>会場の広さ、数、設備は適切か</p> <p>利用料（安価ほど高い評価）</p>
<p>④ 宿泊施設</p> <p>宿泊施設へのアクセスは良いか</p> <p>収容人数（一つの宿泊施設に大人数宿泊できるか（宿泊施設の数が少ないほど良い評価）。）</p> <p>利用料（安価ほど高い評価）</p>
<p>⑤ エクスカーション先</p> <p>科学の甲子園に出場する選手団（約430名）に適切なエクスカーション先（最終日の朝出発し、午前中で終了可能であること）を提供できるか</p>
<p>⑥ 運営経費の負担</p> <p>会場利用料、出場選手団、競技支援員、関係者等の自治体内移動に係る交通費、宿泊費等運営経費の負担可能額。</p>